

宇宙天気情報利用におけるニーズ・シーズマッチングの検討

Analysis of Needs-Seeds Matching for Using Space Weather Information

*石井 守¹、埜 千尋¹

*Mamoru Ishii¹, Chihiro Tao¹

1. 国立研究開発法人情報通信研究機構

1. National Institute of Information and Communications Technology

情報通信研究機構では、2005年よりほぼ毎年「宇宙天気ユーズーズフォーラム」を開催してきたことに加え、2013・14年の2年にわたり宇宙天気情報の利用者に対して姉妹k-戸やヒアリングを通しそのニーズの調査を行ってきた。

2015年に新学術領域「太陽地球圏環境予測」（PSTEP）が採択された。この中の主要な目標の一つとして「宇宙天気情報の双方向システムの構築」が挙げられている。この実現のために、新たに「宇宙天気ユーザー協議会」を立ち上げるとともに、研究者側から提供できる情報と、利用者が必要としている情報の調査を行い、ギャップ解析およびマッチングに向けた分析を行っている。

現在、宇宙天気情報の実利用検討で最も進んでいる分野として、航空運用が挙げられる。2014年には、国際民間航空機関（ICAO）で航空気象を規定する第三付属書の改訂が検討され、使用される宇宙天気情報の仕様が示された。しかしながら航空関係者にとってはこの利用について未だ十分な理解を得られているとは言えない状況である。このような事例を挙げつつ、ニーズ・シーズマッチングに向けた議論を行う。

キーワード：宇宙天気、市場調査、航空運用

Keywords: space weather, user investigation, aviation